

Review of Operations

情報機器事業

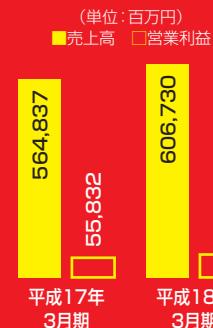
MFP事業では、カラーMFP新製品の投入や強い商品力により、販売台数を大幅に拡大。モノクロ高速MFPはラインアップを一新し、販売台数は好調に伸長。プリンタ事業では、一般企業ユーザーを販売ターゲットとして消耗品拡大を狙いとする方針に転換。

売上高は前期比7%増、営業利益は前期比17%増。

- カラーMFP:「bizhub(ビズハブ) C351」など新製品4機種を投入し、ラインアップが充実。国内外ともに販売台数は大きく伸長、前期比で倍増。
- モノクロ高速MFP:「bizhub(ビズハブ) 920」など11機種を投入し、ラインアップを一新。

また、プロダクションプリント(軽印刷)への販売を強化。販売台数は、カラー、モノクロあわせて前期比30%増。

- カラープリンタ:競合他社との価格競争の続くなか、「magicolor(マジカラー)」シリーズのカラープリンタの拡販に注力。OEMビジネスも、大手プリンタメーカーへの新製品出荷を当期後半から開始。



オプト事業

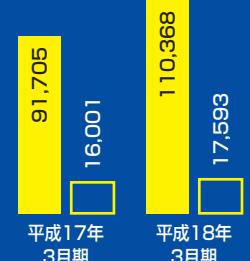
当社の強みを最大限に活用し、市場トレンドや技術動向を先取りした対応を行い、事業規模拡大に取り組んだ結果、売上高は前期比20%増、営業利益は前期比10%増。

- 液晶偏光板用保護フィルム:大型液晶テレビ用視野角拡大フィルムを中心とする高機能製品が大幅に伸び、販売数量は前期比40%強の増加。
- ガラス製ハードディスク基板:PC用、情報家電搭載用の需要が伸び、販売数量は前期比50%強の増加。
- 光ピックアップレンズ:販売シェアは維持するものの、当期前半の在庫調整や単価下落の影響を受ける。次世代DVD向けでは、ブルーレイディスク方式・HD DVD方式とも技術開発が完了し、量産開始の準備が整う。



- カメラ付携帯電話用マイクロカメラ:センサー付カメラユニットの量産が始まり販売を拡大し、高画素対応製品を中心に販売数量は前期比で倍増。
- レンズユニット:ビデオカメラ用が好調に推移。

(単位:百万円)
■ 売上高 □ 営業利益



注:売上高はグループ内取引を除いた外部顧客に対する売上高です。



メディカル&グラフィック事業

医療分野を中心に販売が好調に推移。売上高は前期比13%増、営業利益は前期比76%の大幅増。

- 医療分野：国内外ともに機器販売は好調に推移。これらデジタル機器販売に対応したドライフィルムの販売も堅調。
- 印刷分野：デジタル色校正システムやデジタルカラー印刷機の販売に注力。



計測機器事業

売上高は前期比10%増、営業利益は前期比17%増。

- 自動車産業やフラットパネルディスプレイ産業など向けの色計測分野で、販売が堅調に推移。三次元計測分野では、新規顧客開拓に注力。



フォトイメージング事業

今回の事業終了決定に伴い、それぞれの商品分野で事業終了に向けた対応を行った結果、売上高は1,871億円、営業損失は71億円。

(事業終了の詳細については、6ページをご参照ください。)



その他

平成17年1月に新たに事業会社を設立し、事業展開に取り組んでいる産業用インクジェットプリンタ事業では、高精細プリンタヘッドおよびインクの販売が大手プリンタメーカーに向けて順調に拡大。テキスタイル向け大型インクジェットプリンタの販売も、欧州市場を中心に大きく伸長。